

北海道 後方羊蹄山

山行日:2009/2/11-2/15

メンバー:田尻(L)、木下、赤井、平野、林、大久保、MSC どんぐり 1 名

今回の北海道ツアーは、秋元さんを始めとする札幌山の会の方々大変お世話になった。このところ毎年の様に訪れているニセコも、いつもほとんど同じところばかり滑ってちょっとマンネリ化して来た感がある。

去年だったか一昨年だったか、次にニセコに行くなら、ちょっと目先を変えて各方向の登山口から羊蹄山を滑り尽くすと言う計画も面白かろうと、赤井君と話した事がある。それが今年の計画の発端だ。昨年の正月に、広瀬さんの企画で十勝岳を訪れた時に札幌山の会の人たちに出会った。その時、佐藤しんさんに、次にニセコに来る時があったら、札幌山の会の京極山荘を使ってくれという、暖かいお誘いを受けた。折角なので、今回はその好意に甘えさせて貰うこととした。



2/12 <曇時々晴>

7:20 京極登山口 420m →10:25 1,350m スキーデポ →13:10-30 羊蹄山山頂 1,893m
→14:40 1,350m →15:40 京極登山口

前日、私とどんぐりの内田さんは神戸空港を発った。東京の皆とは新千歳空港で合流する。マギー、木下さんも今回は一緒だ。マギーは暫くのブランクの後で、山と一緒に来ること自体久しぶり。木下さんも、私がニセコに来始めた当初はいつも一緒だったけれども、暫らく仕事が忙しく、北海道と一緒に滑るのは久しぶりだ。林さんも元気そうだし、皆と一緒に滑るのが楽しみだ。

例のごとくレンタカーを借りてニセコへ向かう。今年は雪が少なく、道路上にもほとんど雪が無い。ち

よっと心配だが、行く先はその名が世界に響き渡る天下のニセコだ。心配するのは止そう。

事前に札幌山の会のウェブサイトから京極山荘の地図はダウンロードしておいた。除雪路の終点までは迷うことなく辿り着いた。しかし、それらしい小屋が幾つかある。トレースも一本ではない。どれが札幌山の会の小屋だろうかと、ちょっと迷いながら、シールで積雪の上に踏み込んだ。だが、心配は無用。既に小屋にはしんさん達が到着し、料理の準備を始めてくれていた。我々の姿を認め、オーイと声を掛けてくれたのですぐに分かった。その夜はとりあえず歓迎会という事で、たくさんのご馳走を振舞っていただいた。



翌朝 6 時に起床する。7 時過ぎに登り始める。今日は京極コースに行ってみる事にする。京極コースは山荘の目の前から出発する事ができる。今は一面の雪野原となっているだっ広い牧場を横切り、そのまま目の前に聳える羊蹄山に向かって行けばいい。昨日のものだろうか、既にトレースもあるのでそれを頼りに登山道に忠実に高度を上げて行く。京極コースは、登り始めの標高が低いせいもあるのだろう、ちょっと藪が濃いような気がする。おまけに火山流によってできた小さな谷と尾根が錯綜していて、登りの時は痩せ尾根の登高に煩わされ、下りではルートファインディングが難しい。

富士山型の山岳の特徴通り、裾は緩やかだが、高度を上げるに連れだんだん傾斜が増してくる。積雪量は深いところで足首。そんなに深い雪ではない。覚悟していたよりラッセルは楽だ。標高 1,000 メートルを越えた辺りから樹林が少なくなり始める。同時に風も強まってきた。1,350 メートルの樹林限界で、青氷が出始めたのでスキーデポをすることにした。

風で飛ばされないようにしっかりと雪面にスキーを突き刺して、以降はアイゼンで高度を上げる。残りの高度差は、約 500 メートル。シュカ



ブラで覆われた雪面は、踏み出す足が不規則に潜って歩きにくい。途中で平野さんのアイゼンが、片方緩んで外れた。しかし、カチカチのアイスバーンと言うほどでもないので大事には至らなかった。赤井君が一番若くて元気なので、先頭でステップを切ってもらう。この登高に 3 時間弱を費やした。登りはかなりの強風が北から吹き付け、7 名のメンバーのうち 3 名が右ほほに顔面凍傷を負った。

13 時に外輪山に出た。外輪山に着いた直後は視界が開け、噴火口が見えたが間もなく視界は霧に閉ざされた。

お鉢をちょっと歩くと霧の中に山頂の標が立っていた。最高点に至るには、他のコースに比べて京極コースが最もお鉢の周りを歩く距離が短かくて済むのだ。標の前にみんなで並んで記念撮影をした。厳冬の羊蹄山頂に立ったのは、2003 年以来二度目となる。



尤も前回は真狩側から登ったので、お鉢のふちまでで、この最高点に立つのは今回が初めてだ。

登頂を果たしたので、下山にかかる。アイゼンでの歩行は登りより降りの方が難しい。登りに採った登山道に忠実なコースは、尾根気味の箇所を通っているので、シュカブラが多くバランスを崩しやすい、一部にはアイスバーンとなっているところもあって、雪質が不均一で歩きにくい。滑落すると大事となりそうなので、やや喜茂別寄りの、浅い沢の中を極力歩くようにした。沢状になっているところは一般に吹き溜まりとなる事が多く、比較的斜面に硬いところが少なく、滑落の危険が低いのだ。下山時には風向きも南寄りとなって少し弱まり、気分的にも楽になった。このコンディションだったら、スキーでの山頂滑降も可能だったなと後で思う。しかし、実際には強風の中で、風に煽られやすいクワガタスタイルで山頂まで登るのは容易ではなく、今日の判断としてはスキーをデポしたのは適切だったと思っている。斜度は 35°程までなので、もし、もうちょっと風さえ弱ければ、この京極コースなら厳冬期であっても山頂からスキー滑降の可能性が十分にあることが、少なくとも確認できたと言うことだ。

スキーデポに戻り、スキーを履いてやっと滑降が始まる。標高 1,000 メートルの痩せ尾根付近は地形が複雑で道迷いしやすい。赤井君もトレースを見誤り、ちょっとルートを外しかけた。ここが最も迷いやすい箇所だと登りの時に注意していたので、GPS で現在位置を確認し、滑降コースを指し示す。目の下には牧場の隅に立つ京極山荘が良く見える。京極山荘には望遠鏡も据え付けられていた。もし今、山荘に人がいれば、我々の滑る姿を確認できたことだろう。ちょっと濃い目の樹林をすり抜け、広い牧場を横切ると京極山荘に到着。総行動時間 8 時間強で本日の活動は終了した。

2/13 <曇のち雨>

7:15 喜茂別登山口 320m →10:30 1,300m 滑降開始点 →11:30 喜茂別登山口

午後から天気が崩れる予報なので、半日で行動を終了すべく計画を立てる。今日は喜茂別コースにしよう。車で周回道路を1/8周ほど移動し、喜茂別登山口を7時過ぎに出発した。

喜茂別登山口から山頂へ続く道は、最初は牧場を突っ切る直線路だ。北海道らしい真っ直ぐな登山道を歩き始める。途中つづら折れで山腹まで続く林道を何度か横切る。樹木に覆われた、だだっ広い斜面の登りが続くが、右の大きく深い沢が目印で、この沢を右手に見ながら登って行けば、大きくコースを外す事は無い。

標高1,300メートルで樹林限界となり斜面が硬くなる。今日はスキーが楽しめる範囲で登高を終了する予定だったので、ここで終了。吹き曝しに出て風も強くなり始めた。この風に逆らいながら樺の樹に寄り掛かりシーンを撮った。

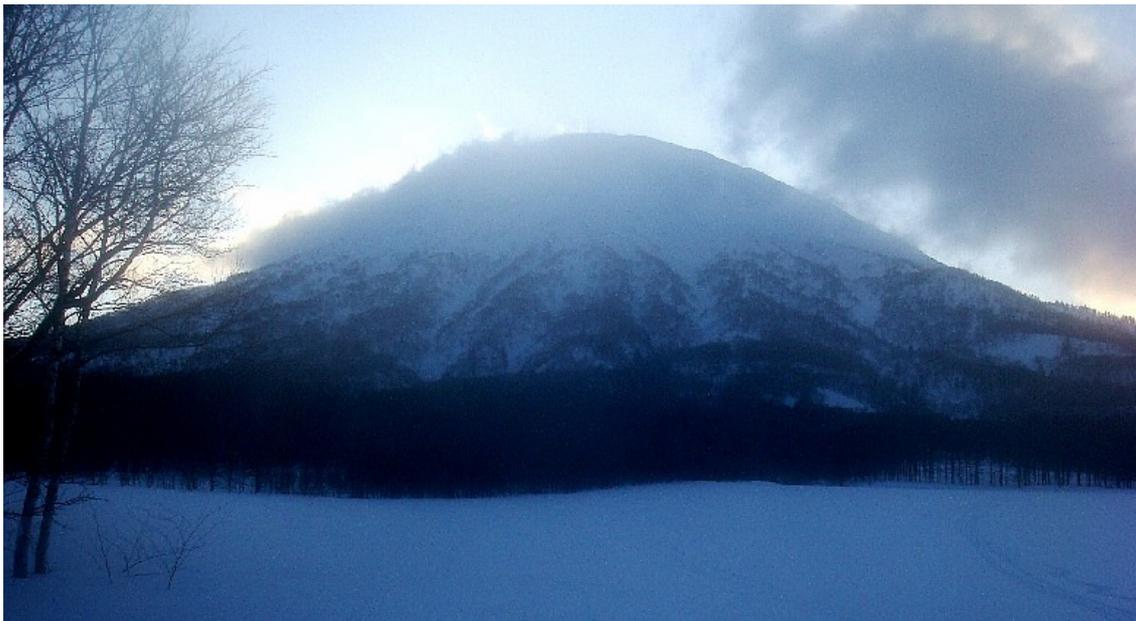
ここからの滑降は本当に最高だった。樹が多くて尾根が狭い京極コースとは違い、まるでピステと見紛うような広々とした中斜面が数百メートル続く。樹林限界を突破しても、まだまだ爽快度は衰えない。やや片斜面ではあるが、気持ちの良い疎林が標高500メー



ルまで続いた。最下部は傾斜も落ちて、流石に樹影が濃くなるが、それでも昨日よりは樹間が広く比較的快適だ。最後は推進滑降で直線道路を通過しフィニッシュ。道端に停めた車に出た。雪の深さは昨日同様足首ほどまでだったが、スキーの充実度だけなら格段に今日の方が上だ。標高差1,000メートルの素晴らしい滑降が行えた。

昼前に行動が終わってしまったので、比羅夫の街まで足を延ばしてみる事にした。嫁を連れてのスキー旅行で何度か比羅夫を訪れた事がある。確か街外れに評判のスープカレーの店があったはずだ。昼食にと皆に提案すると異論は無い。今度は真狩側をぐるりと回って、比羅夫まで出た。

少々道に迷ったが、スープカレーの店はすぐに見つかった。だが、予想以上の人気ようで、既に店内は満席。30分以上待たないと順番が巡ってこないとのこと。そこまで待つほどカレーに飢えていないので、スープカレーは諦める。結局、倶知安まで出てチェーン店のラーメンを食べた。倶知安のマックスバリューで買出しをして、温泉に入って山荘へ戻った。



朝から終日雨なので、沈殿。特にする事も無いので、これまでニセコに来た時はいつも世話になっている、我らの常宿、五色温泉に温泉目当てで行ってみた。五色温泉は標高が高いが、その雪質もかなり雨で悪化しているようだった。

五色温泉には二つの露天風呂がある。だが、湯量が今年は少ないとかで、一昨年赤井君とサーフィンをした景色の良い方の露天風呂は閉鎖されていた。一段下の露天に入るが、湯温が異常に低くほとんど水風呂状態だ。寒くて長くは浸かってもらえない。内風呂に移動する。しかし、入る事のできる湯船が一つしかないので、例年よりえらく混んでいる感がある。手足を折り畳んでやっと暖かいお湯に入ることができた。五色温泉はこんな風に湯量が少ない年が時々ある。来年は復活してくれることに期待しよう。

小屋に帰ったら、秋元さんを始めとする札幌山の会の人達が待っていてくれた。マギーは野上さんが持ってきてくれた烏骨鶏をシメて喜んでいた。沢山の人が出来てきて、夜は大宴会となった。私はあまりの料理の量にちょっと当てられてしまい、残念ながら食欲が落ちてあまり食べる事ができなかった。でも、北海道犬の雑種だと言う、野上さんの



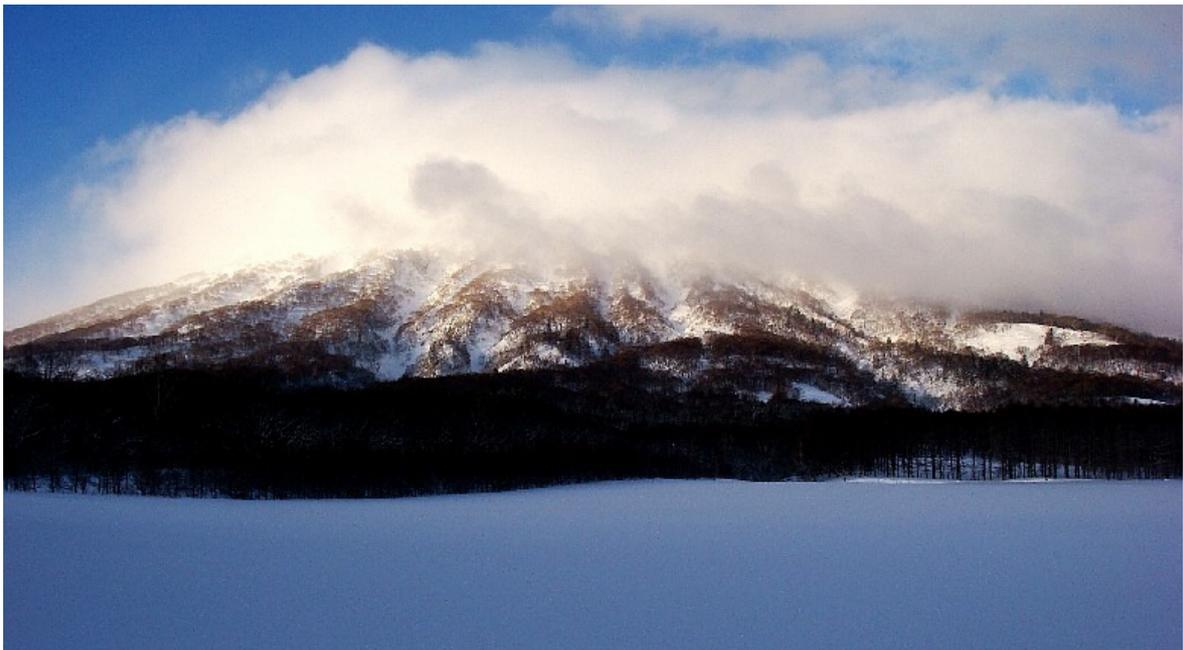
仔犬二匹はとても可愛い。しつけが良く行き届いていて人懐こい。人が近くを通ると、「遊んでちょうだ

い」と目を見つめながら尻尾を振る。今日は、スキーは出来なかったが、この二匹に出会えて心が癒された。

2/15 <吹雪> ニセコワイススキー場

昨日雨だったので、今日はどの斜面もアイスバーンとなっていることが予想される。登山は行わないことにする。千歳空港へ向かうまでの半日しか遊べないので、ワイススキー場へ行って見る事にした。今年もワイススキー場は営業していた。しかし、おばあちゃんが一人でやっているの、いつ潰れてもおかしくなさそうに見える。八幡平スキー場の再開が絶望的な今、ここは非常に貴重なスキー場だ。なんとか今後も営業が続くことを心から祈る。

回数券を買い、スノーキャットに乗り込む。吹雪の中、キャットの手摺にしがみつき 20 分間揺られて山頂駅で降りた。だがワイススキー場の上部はカリカリのアイスバーンで、いつもの深雪はやはり無かった。視界の無い中を滑り降りるが楽しく無い。上部は滑ってもつまらないので、二本目は、シールを着けて樹林限界までだけ登って滑る事にした。この二本目は、登りながら偵察した樹林の中でツリーランを楽しんだりして一本目よりは楽しめた。しかし、この状態ではあまり楽しめそうには無いので、この二本で切り上げて、空港に向かう事にした。ここで札幌山の会のメンバーとはお別れだ。またの訪問に



対するお誘いをいただき、さよならを言った。

<あとがき>

今回は神戸から内田さんという、どんぐりの先輩を同行した。マギーは彼の事をウッチーと呼び、えらく懐いてくれたようだ。また、その後の鳥海山などの山行でも、何度かどんぐりのメンバーと共同でツアーをさせてもらったが、TSMC と札幌山の会のように、今後は神戸の山スキークラブどんぐりとも、より交流が深まる事を願いたいと思う。

なお、今回の計画を立てるに当たっては、「北海道雪山ガイド 北海道の山メーリングリスト編」(北海道新聞社刊)を大いに参考にさせてもらった。北海道のツアーを計画する人にはこの本は必携だと思う。

このガイドブックをパラパラめくっていると、来シーズンの計画が頭に浮かんでくる。喜茂別岳や白老岳なども滑ってみたい。もちろん、今年素晴らしい滑降が楽しめた羊蹄山の喜茂別コースも、またもう一度訪れて見たい場所だ。

そして最後に、札幌山の会の皆さんにお礼を言いたいと思う。しんさん、島田さん、斉藤さん、坂井さん、野上さん、宮園さん、金沢さん、真下さん、二人の上村さん、高ひさんお世話になりました。ありがとうございます。またお会いする事ができればと思います。広瀬さんと秋元さん



のおかげで、北海道に素晴らしい仲間ができた事に本当に感謝です。

